

問1 昭和五十年代と平成十二年ごろの旭川市周辺の状況を比較した資料において、この地域で見られる土地利用の変化として最も適切なものはどれですか。（2016年 京都公立入試 類似）

- かつての田畑や空き地が、住宅地や発電所などの施設へと転換された。
- 住宅地として利用されていた場所が、大規模な水田や畑へと整備し直された。
- 広大な森林地帯が、すべて道路の廃止に伴って未開発の空き地となった。
- 発電所などの公共施設が撤去され、その跡地がすべて伝統的な農地に復元された。

問2 十勝平野で行われている、同じ土地に異なる種類の作物を数年周期で順番に栽培する「輪作」の目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2024年 滋賀公立入試 類似）

- 特定の病害虫の発生や土壌の栄養偏りによる連作障害を防ぐため
- 冷害による被害を最小限に抑えるため、収穫時期を極端に分散させるため
- 米の生産調整（減反政策）に伴い、水田を畑地に転換して活用するため
- 急傾斜地において土砂崩れを防ぎながら、効率よく肥料を吸収させるため

問3 北海道の日本海側から太平洋側にかけての地形断面図を分析したとき、中央部の険しい山地を挟んで西側と東側に位置する平野の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2021年 岩手県公立入試 類似）

- 西側に石狩平野、東側に十勝平野
- 西側に十勝平野、東側に石狩平野
- 西側に根釧台地、東側に十勝平野
- 西側に石狩平野、東側に根釧台地

問4 日本には、知床、白神山地、屋久島、小笠原諸島、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島の5つの世界自然遺産があります。これらが位置する北海道、青森県、秋田県、鹿児島県などの道県のうち、青森県（青森市）、秋田県（秋田市）、鹿児島県（鹿児島市）のように県名と県庁所在地名が一致する自治体がある一方で、北海道は名称が異なります。世界自然遺産である知床を有し、道庁所在地が置かれている都市の名称を答えなさい。（2018年 千葉県公立入試 類似）

- 札幌市
- 青森市
- 鹿児島市
- 秋田市

問5 北海道の石狩平野で見られる「泥炭地」の土地改良について、その目的と仕組みを説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 三重公立入試 類似）

- 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。
- 火山灰が降り積もった水持ちの悪い土地に、粘土質の土を混ぜ合わせることで、水田に必要な水を蓄えられるようにするため。
- 砂丘が広がる乾燥した土地に、スプリンクラーなどの灌漑設備を整え、らっきょうやスイカなどの栽培を可能にするため。
- 山がちな地形で平地が少ないため、斜面を階段状に切り開いて石垣で固定し、日当たりの良さを活かしてみかんを栽培するため。

問6 日本の各地域の農業を比較した統計において、北海道は農業従事者一人あたりの農業産出額が約1570万円となっており、他地域の平均である約310万円と比べて極めて高い数値を示しています。このような北海道の農業を支える背景として最も適切なものはどれですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）

- 農業従事者一人あたりの耕地面積が非常に広く、大型の機械を導入することで生産性を高めている。
- 都心に近い立地を活かし、限られた土地に多くの労働力を投入して単位面積あたりの収益を上げる集約的な農業を行っている。
- 気候が温暖であることを利用し、ビニールハウスなどの施設を用いて他の地域より出荷時期を早める促成栽培が主流である。
- 傾斜地の多い地形を活かして段々畑を作り、果樹などの高付加価値な作物を少人数で栽培している。

問7 日本最大の面積を持つ地域における産業構造の特徴について、統計資料から読み取れる傾向として適切な説明はどれか、次の中から選びなさい。（2022年 愛知公立入試 類似）

- 広大な土地を利用した大規模な水稲栽培などの農業が盛んである一方、第3次産業の就業者割合は約6割強にとどまっている。
- 製造品出荷額等が約25兆円と極めて高く、第2次産業の就業者割合が第3次産業を大きく上回っている。
- 日本最大の面積を持つが、寒冷的な気候のため水稲栽培は行われず、サービス業などの第3次産業が就業者の大半を占める。
- 大規模な土地利用による農業は衰退しており、現在は製造業と観光業のみが地域の主要な産業となっている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 かつての田畑や空き地が、住宅地や発電所などの施設へと転換された。	昭和から平成にかけて、旭川市のような地方中心都市の周辺部では都市化が進展しました。1970年代（昭和五十年代）にはまだ多く残っていた田畑や空き地が、2000年（平成十二年）ごろには、増加する人口を受け入れるための住宅地や、都市活動を支えるための発電所といった施設へと姿を変えています。これは、土地がより高度で集約的な用途へと転換されたことを示しています。
問2	答え 1 特定の病虫害の発生や土壌の栄養偏りによる連作障害を防ぐため	十勝平野では、ジャガイモ・小麦・てんさい・豆類の4品目を中心とした輪作が確立されています。同じ場所で同じ作物を栽培し続けると、土壌の成分が偏ったり、特定の病気にかかりやすくなったりする「連作障害」が発生しますが、輪作によってこれを防ぎ、持続的な農業を可能にしています。
問3	答え 1 西側に石狩平野、東側に十勝平野	北海道の中央部にある大雪山系などの山地を境にして、西側（日本海側）には石狩川の下流に広がる石狩平野があり、東側（太平洋側）には大規模な畑作が行われている十勝平野が位置しています。
問4	答え 1 札幌市	都道府県名と都道府県庁所在地名が異なるケースは、全国で18の府県（北海道を含む）にあります。北海道の場合、道庁が置かれているのは札幌市です。また、北海道にある知床は、北半球における流氷の南限であり、海と陸の生態系がつながっていることなどが評価され、世界自然遺産に登録されています。
問5	答え 1 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。	泥炭地は寒冷な気候の影響で植物が腐りきらずに堆積した土地で、スポンジのように水分を大量に含んでいます。このため、農業を行うには「客土」によって土壌を入れ替え、さらに排水路を整備して余分な水分を取り除く必要がありました。他の選択肢にある「火山灰地」は関東地方や九州地方、「砂丘」は鳥取県などの山陰地方、「段々畑でのみかん栽培」は愛媛県や歌山県などの気候と地形を活かした取り組みです。
問6	答え 1 農業従事者一人あたりの耕地面積が非常に広く、大型の機械を導入することで生産性を高めている。	北海道の農業は、明治時代以降の開拓の歴史を背景に、他都府県と比較して一戸あたりの経営規模が非常に大きいのが特徴です。広大な耕地を効率よく管理するため、大型のトラクターやコンバインなどの機械化が進んでおり、その結果として、農業従事者一人あたりの生産額が他地域を大きく上回る大規模経営が実現しています。
問7	答え 1 広大な土地を利用した大規模な水稲栽培などの農業が盛んである一方、第3次産業の就業者割合は約6割強にとどまっている。	この地域は、5.1万ヘクタールという広大な水稲作付面積に象徴されるように、第1次産業が強い基盤を持っています。産業全体ではサービス業などの第3次産業が就業者の63.8パーセントを占めて中心となっていますが、他都府県と比較すると相対的に第1次産業の存在感が大きく、独自の産業構造を形成しています。